

新しい「棺」のカタチ

自分らしいこだわりを盛り込む――

昨 今、価値観の多様化、核家族化の進行、地域社会の崩壊とともに、葬儀が地域共同体主体から家族主体に変わってきている。また、「遺された者が死者を弔うために行うもの」というのがこれまでの一般的な概念であったが、「自分の死に際して、自分がこの世と別れるために行

われるもの」という新しい概念が広まりつつあるようだ。

「人生最後のイベントは自分らしいこだわりを盛り込み、思い通りの葬儀にしたい」という声が聞かれる中、その要望に応えるべくオリジナリティ溢れる棺や骨壺などの葬祭用品で注目を集めているのが株式会社ジャパ



(上)最も多くの時間を費やしたであろう故人の趣味とともに
(下)想い出の季節に想いを馳せて



穏やかな愛情を「祈りぐま」に託して



ゴルフボール型骨壺

ン唐和。

「故人にとって最後に入る部屋だからこそ、『想い』の溢れる場所にしたい。その人らしさを大切に包み込み葬儀が終わっても、いつまでも人々の記憶に残るものであってほしい。そんな願いを込めて『こごづみ』を商品化しました」（谷口秀和社長）

桜と日本の伝統的な千代紙をイメージしたプリントで華やかにそして優しく故人を包み込む「春」、海のような広い心を持った故人のための「夏」、あたり一面を見事に染める紅葉を施した「秋」、白く純粹な輝きで故人を送る「冬」、こうした想いを込めた「季節シリーズ」の他にも、釣りやゴルフ、野球といった「趣味シリーズ」、記憶に残るシーンやベストショットを棺にプリントする「思い出フレーム」など多種多様なラインアップを用意。

各種展示会に出展するとその存在感は格別で、マスメディアからの取材要請、業者からの引き合いも数多く寄せられているという。

「慌ただしい時の中で淡々と終わってしまいがちな葬儀であっても、棺ひとつで劇的に変化さ

虹の橋

天国の、ほんの少し手前に「虹の橋」と呼ばれるところがあります。この地上にいる誰かと愛しあっていた動物は死めとそこへ行くのです。そこには草地や丘があり、みんなで走り回って遊ぶのです。食べ物も水もたっぷりあって、お日さまはふりそそぎ、暖かくて幸せなのです。そんな虹の橋への旅立ちのお供に愛を込めて「骨袋」や「メモリアルウェア」をご用意させていただきました。



せることができます。私たちは棺にも選択肢があるということをお伝えしつつ、親族や列席者の方々に感動してもらえような棺づくりを今後も続けていきたいと思えます」

最も大切なもの、それは棺の材質や値段ではなく、故人自身の遺志や故人への想いであることを忘れるべきではないのかもしれない。